

# 朝倉駅周辺のまちづくりについて

平成 29 年 8 月 5 号



朝倉駅周辺を、にぎわいの交流拠点とするための取り組みをお伝えします。

## 市役所の若手、中堅職員で朝倉駅周辺整備計画を考えるワークショップを開催しました。

さる平成 29 年 7 月 20 日(木)と 7 月 27 日(木)、朝倉駅周辺整備計画の基本構想策定に向けて、市役所の若手、中堅職員(20代から30代)によるワークショップを開催しました。

このワークショップは、職員研修の一環として、グループワークを通じて市民目線で考える視点を養い、効果的な対話の仕方や参加者の意見をまとめる訓練の場として位置付け、職員課と共同で実施しました。(第1回36名、第2回36名、計72名の職員が参加)

## ワークショップとは？

さまざまな意見を持った人が集まって、自由にアイデアを出し合い、互いの考え方を尊重しながら、意見や提案をまとめていく場のこと。

### ファシリテーター

一般的なワークショップでは、**ファシリテーター**と呼ばれる司会進行役の人が、中立な立場で、参加者のやる気や経験をうまく引き出し、クリエイティブな議論を促進します。

### ○ワークショップ参加のルール

ワークショップの効果を高めるために、守らなければならないいくつかのルールがあります。

- ・相手の意見を最後まで聞く。
- ・相手の意見を否定しない。
- ・自由な発想で発言する。 etc...

ワークショップでは、「正しい答え」を導き出す必要はありません。さまざまな意見を出し合い、それを聴き合う**対話**により、見識を深めることも重要な目的の一つです。そのためには、参加者の主体的な関わりが必要不可欠となります。

### ○ワークショップに期待される成果

- ・1人では思いつかなかった**アイデア**の発掘
- ・「対話」を通じた参加者の**学び・気づき**



(参考：京都府丹後広域振興局 HP)

# <第1回ワークショップ> 平成29年7月20(木)開催

## テーマ:にぎわいのある駅周辺空間について考えよう

(意見交換のポイント) 第1回では、駅周辺のにぎわいについて考え、全体でイメージを共有して、そのイメージを形にするための現状の課題点を話合いました。

(議論のポイント)

駅周辺にふさわしい  
にぎわいとは？

(主な意見)

いつもたくさんの人であふれている、人が集まれる空間がある、人を集めるためのイベントやお祭りが開催されている、商店街や飲食店街があって便利、待合わせ場所として使われているなどのイメージが多く挙げられました。

また、他に無いものや、インパクトのあるものがあると人が集まるのではという意見もありました。

朝倉駅周辺が  
抱える課題、  
足りないものは？

現在の朝倉駅前には、ロータリーその他、市営駐車場、バス・タクシーの停留場等となっており、人が集まれる空間やシンボルとなるものが無い、そのため駅利用以外の目的が無いといった現状に関する意見や、朝夕の通勤・帰宅ラッシュ時の交通渋滞、市内他地域とのアクセスが悪いといった交通面での課題も指摘されました。

## その他に寄せられた意見

ワークショップ終了後に実施したアンケートの中から、ポイントとなりそうな意見をご紹介します。

駅利用だけで終わらず、シンボルとなるものを造って、人の動線を作り出せると良い。

近隣自治体にはない施設、空間を整備することで差別化を図るべきである。

開発によって、駅の使いやすさを損なわないことも大切。周辺道路環境の改善が必要。

検討エリア内であれもこれも作ろうと思うと難しいため、ターゲットを絞ることも必要。

様々な利用者の立場に立って、時間帯ごとの利用のされ方も考える必要がある。

一過性のものではなく、恒久的に人が集まる施設が必要。複数課が連携し、市全体の振興につながる事業にしなければならない。



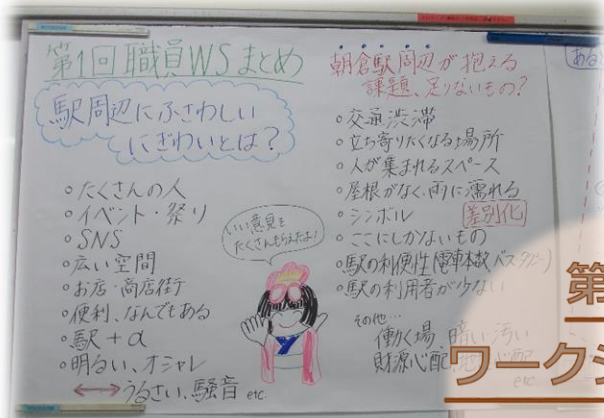
(左)事務局からの  
話題提供  
(右)グループワークの様子



# <第2回ワークショップ> 平成29年7月27(木)開催

## テーマ:こんな朝倉駅周辺にしたいを話し合う

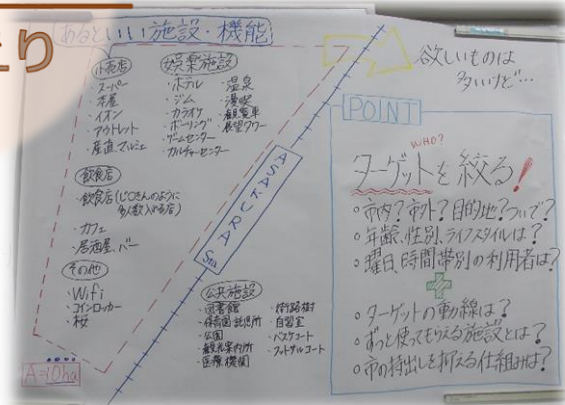
(意見交換のポイント) 第2回では、第1回の議論を踏まえてターゲットを絞込み、利用者目線を意識しながら、駅周辺の整備イメージを話し合いました。



### 第1回 ワークショップの ふりかえり

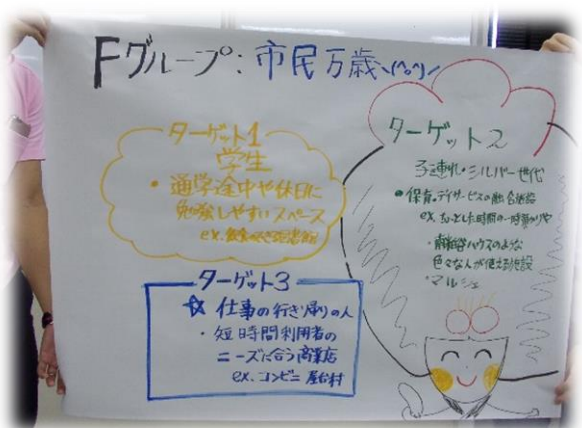
冒頭では、事務局からの話題提供として、岩手県紫波町の「オガールプロジェクト」の先進事例について説明し、**約10haの整備エリアでも、年間80万人の人が訪れるまちづくりが出来る**ことを伝えました。

また、第1回では「こんな施設や機能を整備することが望ましい」という意見がたくさん出てきたため、**ターゲットを絞る視点**を紹介し、駅前に本当に必要なものは何なのかを考えてもらうきっかけとしました。



## ターゲットは誰?

### 各グループの共通意見

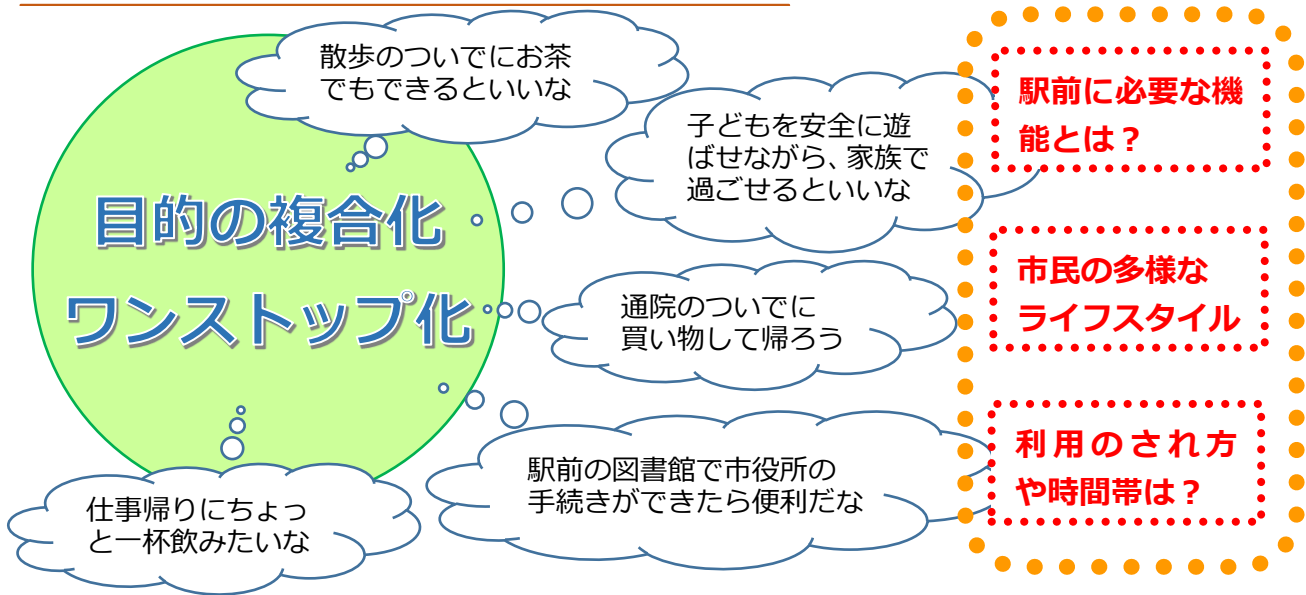


想定される多様な利用者の中から、日常的に**朝倉駅を利用している人**や知多市を生活の拠点としている**市民に**来てもらえる、**利用してもらえる駅前空間を整備**することが各グループの共通意見として挙がりました。

また、朝倉を好きになってもらった人からの知人への**口コミや SNS を効果的に利用し情報発信**することで、市外の方や観光客等にもアピールすることができるとの意見もありました。

# 目指すべきまちづくりの考え方は？

(多様な視点で意見交換)



多くのグループでは、朝倉駅前＝電車の利用に限定されている現状を考慮し、**駅前に複数の目的の地を整備**することで、**日々の暮らしの中で、何かのついでに寄ってもらえるような駅前**にすることが望ましいというアイデアが示されました。

設定時間が短い中でも、若手職員ならではの視点に加え、多様な市民生活を考慮したアイデアが提案され、議論を深めることが出来ました。

## その他に寄せられた意見

**時代の変化に対応できる柔軟なまちづくり**が望まれる。施設整備は最小限とし、広場空間をできるだけ大きく確保したい。

**無料で滞在できる場所**（広場、公園）に人を集め、その人たちが周辺の商業施設を利用する仕組みを作ると良い。

**子育て世代の転入促進**を意識した取組みができるとうい。

市役所北側の**既存施設**（スポーツ施設等）への**来訪者を取込む機能**を整備すると良い。



(左)グループワークの様子  
(右)ワークショップの成果



ご意見・問合せ 参与室(都市計画課)  
電話 0562-33-3151  
E-MAIL : sanyo@city.chita.lg.jp